

令和4年度東京都立松が谷高等学校学校経営報告

1 今年度の取組目標と自己評価について

教育活動の目標と方策

ア 学力向上への取り組み

- (ア) 観点別評価の導入に伴い、新たな評価方法について教科主任会や企画調整会議等で検討を重ね、3観点をABC評価し5段階評定を算出する際の校内規準を定めた。観点別評価の評価・評定との関係やその位置づけ等の更なる共有、効果的な活用方法の検討が課題である。
- (イ) 導入初年度の統合型校務支援システムC4th及び定期考査採点・分析システムの円滑な導入と有効活用を図り、成績処理等に係る教員の負担軽減に資する取組を進めた。出欠入力の徹底等課題を踏まえ、学級担任や教科担当にメリットが感じられる体制を構築していく。
- (ウ) 各教科で小テストやTeamsを活用した週末課題連絡等、家庭学習習慣の定着支援を行い、授業以外学習時間として毎日1時間以上学習する生徒が平日42.5%で昨年を2P上回った。
- (エ) 教科を問わず協働的な学びを推進し、生徒一人1台端末やTeams、スタディサプリ等を有効活用することで生徒の主体的な学びと基礎学力向上に資する実践を進めた。授業満足度については、生徒の79.0%、保護者の73.1%から肯定的な評価があった。
- (オ) 自己の進路につながる課題を自ら設定し解決する力を身に付ける計画的な探究活動が定着した。各学年進行となっている探究活動を学校全体でどう実施し、本校に合った内容となるよう改善を図るなど、教員間での共通理解を基盤とした組織的な運営が課題である。
- (カ) 活字離れが叫ばれる中、図書館等を活用した読解力向上を図る取組を進め、読書活動推進について生徒88.2%、教職員86.1%の肯定的な評価があった。今後も大学入試や民間検定試験に有効な記述力、プレゼン能力の育成を図る授業実践等を計画的・組織的に行う。
- (キ) 数学と英語における習熟度別学習に関して、学校評価アンケートでは学力向上への効果として生徒81.4%、保護者78.6%、教職員88.9%の肯定的な評価があった。今後も生徒・保護者に習熟度別や少人数指導による学力向上への効果を実感させる取組を継続する。
- (ク) 自習室の活用について、回答した3年生の52%が利用し、利用時間は概算3689時間、満足度は5段階で3.88であった。今後1・2年生の積極的な活用も促す。また長期休業中の講習については、39講座のべ1659名が参加し昨年度比10講座、約400名の増加があった。
- (ケ) 指導教諭による他校教員への公開も含めた模範授業、初任者教員の研究授業等を通じて授業改善や授業力向上を図った。今後も生徒一人1台端末の配置学年拡大を踏まえ、ICTやデジタルサポーターをさらに有効活用した学習支援体制の充実を図る取組を進める。
- (コ) 模試や学力診断テスト等の実施により担任・各教科担当がデータを基に生徒の学習習慣や学力推移を的確に把握し、分析会等を通じて学習指導の改善方法を具体的に検討した。

イ 希望進路の実現への取り組み

- (ア) 進路指導部を中心に各学年と連携して統一感を持った計画的・組織的な進路指導を行った。今後も生徒の多様な進路希望に対応できるよう学年との連携を一層強化し、teams等のツールを活用した積極的な情報発信や大学等と連携したキャリア学習を推進する。
- (イ) 進路に関する情報や模擬試験、英語検定に係る連絡などを整理の上、進路通信やTeams等を通して生徒・保護者にタイムリーに発信した。各クラスの進路委員の活用も進んだ。
- (ウ) 「総合的な探究の時間」等を活用し、進路ガイダンスや模試事後指導により生徒の進路意識を高めた。今後も高大連携による出張講義やキャンパス訪問等をさらに活用する。
- (エ) 進路意識調査や第一志望調査、模試データ等をシステム化することでデータに基づく進路指導を充実させた。進路の手引きを1冊にまとめ、3年間の進路の流れの把握も図った。

- (オ) 自習室のレイアウト改善や書籍の充実により、利用生徒及び利用頻度の増加が見られた。長期休業中の学年を超えた講習も増え、今後も生徒のニーズに応える講習の実現を目指す。
- (カ) 1・2 学年での学力診断テスト、3 学年での模試等の実施により学習時間の把握や成績推移の確認等に努めた。また 2・3 年生での英検全員受検と全教職員での実施体制により、昨年度を上回る英検準 2 級 181 名（昨年度 133 名）、2 級 83 名（同 64 名）の合格があった。
- (キ) 進路指導部専任の毎朝の打ち合わせにより各業務を円滑に運営した。また進路指導部会に各学年進路担当者も出席することで生徒の情報共有化を図った。今後も進路指導部専任の学年会への出席や多様化する進路希望への対応、進路情報の共有の工夫等を進める。
- (ク) 推薦選抜等への対策として 3 年生希望者への専門分野を考慮した担当教員による小論文・志望理由書等の指導を実施し進路実現に大いに寄与した。1 年次からの一般選抜受験を念頭に置き計画的な探究活動の充実等を通じてより高い志望先へ挑戦する層の増加を図る。
- ウ 外国語の確実な習得への取り組み
- (ア) JET2 名及び ALT6 名を有効活用した英語による英語授業、ICT 等を活用した協働的学びにより英語 4 技能の着実な向上を図り、英語教育充実度は生徒 88.4%、保護者 88.5%に達した。
- (イ) 4 技能向上のため図書館に 4,000 冊以上ある英語多読用図書を授業で活用し、英語版ビブリオバトル（書評合戦）を実施した。3 月に 1・2 年生全員対象にアマゾン合同会社の鈴木琢也氏を招き「不可能を可能にかえるチカラ」をテーマに国際理解講演会を実施した。
- (ウ) 感染状況を鑑み夏季休業中の現地でのフィリピン語学研修は中止としたが、代替としてオンライン形式で研修を実施し 9 名（1 年 4 名、2 年 2 名、3 年 3 名）が参加した。生徒からの高いニーズを踏まえ、次年度は現地での 4 年ぶりの実施を目指して計画を進める。
- (エ) 11 月の学校説明会における外国語コース体験授業において JET や ALT を活用し、中学生・保護者に外国語コースの実際と魅力を十分に伝えた。今後も英語教育研究推進校としてのメリットを活かし、4 技能向上のために授業内外での JET や ALT の活用を一層図っていく。
- (オ) 海外学校間交流推進校に指定されたものの、海外からの修学旅行や留学生の受け入れ等の体験機会はなかったが、昨年度から始まった韓国 2 校及び台湾 1 校とのオンライン交流は一層盛んになった。今後も外部機関と連携した海外生徒との交流を企画、実施する。
- (カ) 英検は 5 月の 2・3 年生の全員受検、10 月の希望者受験により、合格者数が準 1 級 4 名（昨年度 4 名）、2 級 83 名（同 64 名）、準 2 級 181 名（同 133 名）と増加した。今後も試験監督や 2 次試験前の面接指導を含め、全教職員体制で学年別目標級の取得を目指す。
- (キ) 9 月・11 月に 1 年生全員対象に GTEC（ベーシック）を実施し、トータルスコアは前年比 45.8 ポイント上昇した。今後も英語 4 技能の伸長データの蓄積及び分析と事後指導を徹底する。
- エ 国際理解教育及び国際交流の充実
- (ア) 海外学校間交流推進校としての海外生徒との交流はオンライン中心で限定的であった。次世代リーダー育成道場第 11 期生として 2 年生 1 名が 1 月から豪州へ留学中である。今後も交流機会を確保し、生徒が英語力を試したり異文化を体験する場を増やす取組を進める。
- (イ) 11 月にメキシコ大使館職員を講師に招き選択科目スペイン語を履修する 3 年生対象に交流イベントを実施した。3 月のブルネイ大使館との交流は先方の都合で中止となったが今後も国際理解教育推進のため外部講師による国際理解教室や異文化理解講座を実施する。
- (ウ) 姉妹校となった韓国の高校とのオンライン交流などが一層盛んになった。感染状況の終息が見られる中、徐々に海外生徒との対面形式での交流機会の再開と拡大を図っていく。
- (エ) 校内の各種英語コンテストやイベントを通じて JET や ALT を審査員等として活用した。今後も授業内外で生徒のプレゼン技能や書く力など英語運用力の向上を図る指導を行う。
- オ 生活指導充実への取り組み
- (ア) 身だしなみ指導として毎朝の立番指導や 10 月に一斉指導週間を設けて全校体制で指導に当たる取組を進めた。今後も生活指導部と学年団が連携して身だしなみ指導を計画的に実施し、具体的な指導方法についても検討・改善しながら全校体制で指導に取り組む。

- (イ) 6月に3学年合同の体育祭を3年ぶりに実施した。また9月に3学年合同で翔桜祭を3年ぶりに実施した。体育委員及び文化委員の生徒を中心に、委員会活動を通じて実施に向け主体的に行動でき、生徒全体の達成感の向上と異学年の交流深化を図ることが出来た。
 - (ウ) 全教職員でチャイム着席の励行やスマートフォンの使用等の授業規律の徹底を図った。登下校時の自転車のマナーに関して地域からの苦情が数件あり、その都度注意を呼び掛けて巡回や警備を強化した。雨天時に近隣住民に傘を貸した生徒の善行を集会で紹介した。
 - (エ) 特別指導として窃盗疑い1件、万引き1件があった。定期考査時の不正行為疑いがあり、その対応などについて教職員で共通理解を図った。学期ごとに拡大生活指導部会を行い、日常的な指導方針等について協議した。校則については生徒が主体的に考える機会を設定したり、課題となっているスカート丈について安全面の観点からも今後指導を継続する。
 - (オ) 安全指導については、登下校時のマナーへの苦情や自転車事故、不審者被害などへの迅速な対応を心がけ、警察と連携しながら防犯カメラの設置や通学路の巡回を行うなど生徒の安全確保に努めた。また婦人警官による講話を行い、生徒の危機意識の向上も図った。
 - (カ) いずれも外部講師を招き、がん教育講話やデートDV予防啓発講話、セーフティ教室として薬物乱用防止講話やネット犯罪防止講話、インターネットトラブル防止講話、命の講話を実施し、自殺予防、ネット犯罪の被害・加害等の防止を図り生徒の意識喚起を行った。
- カ 部活動の充実と体力の向上への取り組み
- (ア) 新型コロナ感染拡大の中、全部活動27団体が大きな事故なく安全第一に活動を行った。今後春の部活動紹介を工夫するなど新入生に活動の魅力を十分に伝えることで、健全な心と身体を育成する活動を活性化させ、現在72%となっている部活動加入率の向上を図る。
 - (イ) 都教委のガイドラインに則り安全・安心な部活動を心がけた。熱中症については、活動前にWBGTを測定して活動内容を工夫し緊急対応は減少した。また昇降口やグラウンド入口にミストを増設した。今後も設備改善の要望や生徒への予防教育、教員への研修を進める。
 - (ウ) 部・同好会代表者会議において部室の利用状況把握や割り当ての確認などを行い、生徒主体の組織として成立しつつある。今後も生徒の計画的な部活動を支援するとともに、体罰やセクシャル・ハラスメント等の根絶に向けた取組を周知し活動の透明化を図る。
 - (エ) 「Sport-Science Promotion Club」の指定を受けたアーチェリー部が全国大会等への出場を果たした。同部の取組を他の部活動の競技力の向上等に生かす体制づくりを行う。
 - (オ) 5月に東京都統一体力テストを実施し、生徒が課題を持って体力向上に取り組み、生涯を通じてどんな困難な状況においても自分らしく生きるための意識の向上を図った。
 - (カ) 1年生の探究学習やESS部の英語指導など松が谷小学校との交流が盛んになり、中学生の体験入部など地域の学校との連携も再開しつつある。生徒会と「コミュニティプレイスマつまる」とPTAが連携したお弁当企画など地域と連携した活動にも積極的に参加した。今後もスポーツ振興や地域活性化のため地域団体や小中学生との交流活動を実施する。
- キ 生命尊重と人権感覚の磨かれた生徒の育成への取り組み
- (ア) いずれも外部講師を招き、生徒対象のセーフティ教室(7月及び3月)や部活動生徒対象の救命救急教室(7月)、がん教育講演会(12月)、性教育講演会(12月)を実施した。
 - (イ) 4月にスクールカウンセラー(SC)による1年生全員面接を実施した。またSCを講師に教員対象の教育相談研修会を実施した。特別支援教育については地域拠点校と情報交換しているが、通級指導や「都立学校版コンディショニングレポート」の体制作りを今後進める。
 - (ウ) 全学年対象にいじめに関するアンケート調査を各学期1回ずつ計3回実施し、気になる生徒には聞き取りを実施した。今後も校内における情報共有を徹底し、学校いじめ対策委員会を核に発生時の早期対応を心がける。
 - (エ) 3月に1年生全員を対象に自殺予防教育講演会として助産師を招いた「命の講話」を実施した。特別支援コーディネーターを講師に教職員対象の特別支援教育研修会を実施した。
 - (オ) 「都立学校間交流教育」事業を通じて、地域の拠点校である南大沢学園との部活動交流を実施した。今後も発達障害等の生徒への通級指導などの対応を含め連携を充実させる。

(カ) 令和4年4月からの18歳成年制度を受け、公民科や家庭科の授業で契約など消費生活に関する基本的な知識や消費者として主体的に行動できる能力と態度を身に付ける指導を行った。今後も外部講師を活用した主権者教育、消費者教育、租税教育等も充実させる。

ク 環境・健康・安全教育の取り組み

(ア) 松が谷商店街「コミュニティプレイスマつまる」での交流体験学習やボランティア活動による小中高連携事業及び地域連携事業を積極的に行い、生徒の社会貢献意識を涵養した。

(イ) 教科「人間と社会」における体験活動はコロナのため制限があった。今後はオンラインも活用しながら進路意識向上のための取組を担任と進路指導部等が連携して実施する。

(ウ) 引き続き新型コロナ対策により生徒各自のごみ持ち帰りを呼びかけたが、更衣室等へのごみ放置や缶・ペットボトル回収箱等へのごみ捨てが一部見られた。従来の清掃活動に加え、教室でよく触る場所や部活動使用場所の消毒も行った。

(エ) 新型コロナ感染防止対策として全教職員が協力し、毎朝の健康観察、サーモグラフィーによる検温・登校指導、教室の環境整備・消毒、換気の励行を行ったが、心とからだの健康観察は定着が難しかった。アレルギー等の既往症に関する教員の情報交換と緊急対応の研修会を引き続き行う。また防災教育の充実を図り、避難訓練の方法も工夫する。

(オ) 痴漢・露出狂や不審者報告が複数回あり、南大沢警察署と連携して防犯カメラ設置等の捜査協力を行った。生徒には引き続き「被害に会ったら110番」と注意喚起し、警察との情報共有をさらに強化する。また自転車ヘルメット着用努力義務への対応も進める。

ケ 地域に根ざした学校づくりへの取り組み

(ア) 学校運営連絡協議会を年3回(6月と2月は書面、10月は対面形式)するとともに、地域の小学校1校及び中学校3校の学校運営協議会に参加し、地域からの要望や意見を反映した学校運営の透明化を図った。児童・生徒との交流事業の再開と拡大が課題である。

(イ) 改訂した学校危機管理マニュアルを基に、今後も自然災害発生時や避難所としての対応、事故・事件発生時の対応や連絡体制を明確にした危機管理体制を地域と連携して構築する。

(ウ) 活動に制限がある中、部活動指導員や外部指導員を有効活用し、教員の部活動指導における負担軽減を行った。今後も教員のライフ・ワーク・バランスの推進を一層図っていく。

(エ) 部活動の活動制限や自宅勤務の活用等により結果的に教員の超過勤務は減少傾向だが、今後も年次有給休暇の積極的な取得等により、心身の健康を守る学校づくりを進める。

(オ) 今年度、男性教員の育児休暇取得はなかったが、今後も取得を促していく。また超過勤務の教員について、産業医及び管理職との面談を通じて状況把握と助言を行った。

コ 広報活動充実への取り組み

(ア) 感染予防対策を徹底させた上で、8月の学校見学会(3日間)に1876名参加、10月と11月の学校説明会2回に782名、11月の都立合同説明会に80名、12月の縮小版学校説明会に68名、1月の個別相談会に37名の参加があった。

(イ) 入学者選抜の最終倍率は、推薦に基づく選抜が普通科男子2.96、普通科女子3.35、外国語コース1.54、学力検査に基づく選抜が普通科男子1.41、普通科女子1.42、外国語コース1.18であった。普通科では1学級増があり単純比較はできないが、倍率はやや減少した。

(ウ) 外国語コース説明会を11月の学校説明会と一体化し、JETやALTとのTTによる体験授業や生徒の英語スピーチ発表を実施して外国語コースの特色を十分に伝える内容とした。

(エ) 昨年度に引き続き学習塾等を対象とした学校見学・説明会を11月に実施した。本校の取組や特色を積極的にPRしたところ好評であったので来年度も実施する。

(オ) ホームページの更新を計160回以上行った。今後もタイムリーな話題や部活動情報等の更新を頻繁に行うなど、本校の教育活動を分かりやすく、迅速かつ正確に発信する。

サ 経営企画室の経営参画の推進

(ア) 経営参画ガイドラインに基づき、経営企画室と教員との連携を強化して業務を遂行した。また教育庁関係部署等との調整等により経営参画を推進し、各課題の解決を図った。

(イ) 次年度の自律経営予算についてヒアリング等を通じて教員と意識を共有し、計画的・適

- 正な編成を行った。また増学級対応を含め、臨機応変かつ効率的な予算執行に努めた。
- (ウ) 一般需用費のセンター執行率は98.0%で、入学者選抜において2回目となるインターネット出願事務や個人情報管理、会計事故防止等について教員との連携も円滑に進めた。
- (エ) 生徒の生命、身体に関わる事故を未然に防止するため、教員と連携しながら日常的な施設、設備の点検を実施し、連絡調整や修理等速やかな対応を行った。

2 数値目標

内 容	目 標	達 成 度
学校評価アンケート 本校満足度	90%以上	今年度 生徒 87% 保護者 89%
自宅学習時間（授業以外で自習する） の確保	毎日1時間以上を 平日40%以上 休日50%以上	今年度 平日43% 休日55%
学校評価アンケート 授業満足度	85%以上	学校評価における生徒の肯定的 割合 今年度 79%
読書活動の推進 ビブリオバトル含む読書の意欲	90%以上	1・2年生の生徒の肯定的割合 今年度 88%
英語検定 準1級、2級、準2級取得者数	準1級 5名以上 2級 80名以上 準2級150名以上	今年度 準1級 4名 今年度 2級 83名 今年度 準2級181名
GTEC スコア	前年度スコアより向上	今年度 1年スコア45.8P上昇
英語教育の充実度	90%以上	学校評価における生徒の肯定的 割合 今年度 88%
進路決定率	90%以上	今年度 90%
長期休業中の講座数 講習・補習の参加人数	前年度以上	今年度 39講座1659名
国公立・難関私立大（早慶上理）現役合格者数	5名以上	今年度 5名
GMARCH現役合格者数	40名以上	今年度 23名
中堅私大（日東駒専）現役合格者数	70名以上	今年度 71名
学校評価アンケート 部活動満足度	80%以上	学校評価における生徒の肯定的 割合 今年度 73%
年間遅刻延べ回数	前年度より減少	今年度 1年 641回 今年度 2年 1626回 今年度 3年 2612回
学校見学会、説明会等 参加者数	前年度以上 (新型コロナの状況を踏まえ)	見学会、説明会、入学相談会の 合計 今年度 2658名
ホームページの更新回数	160回以上	今年度 165回

3 学校評価アンケート結果について（別紙参照）